

## 令和3年度学校総合評価(自己評価)

### 1. 目指す学校像

1. 「孝 恩 徳」の校訓の下、様々な学校活動を通して、  
多様な見方や倫理観を育てる総合人間教育を行う学校
2. 「Society 5.0」を牽引する人材の基礎となる、  
高い学力と探究心を育成する学校
3. SDGs の学びや海外研修などを通し国際理解の醸成や、  
英語を含めたコミュニケーション能力の育成を行う学校

### 2. 重点課題

「Society 5.0」を牽引するリーダーとなる人材の素養を育成する取り組みを継続している。  
現在の本校の状況を鑑み、令和3年度、下記の5項目を重点目標として掲げた。

1. 進路意識の高揚と進路実現
2. 学力の向上
3. 探究の学びの継続
4. 学校行事・部活動の充実
5. 体力向上と品格の陶冶

### 3. 総合評価

今年度も、教科の学習の生徒の主体的学びを通し、自らの進路と21世紀を生きる力を育むとともに、学校行事や部活動を通して、豊かな人間性を養成することが本校の課題である。しかし、世界規模での新型コロナウイルス感染症の拡大により、中学校では8月、高等学校では1月に一部期間をオンライン授業、高校3年生は2月からすべてオンライン授業に切り替え、十分な感染予防対策を行いながらの学校活動の実施であったため、教科学習の授業時間や質の確保や感染者を出さない広げないことが最優先課題となった。さらに、感染予防のため食事時間は黙食で向かい合って食事ができなかったり、区切りごとの一斉消毒、手洗いなど制約が多い中での学校活動だったため、生徒達が窮屈を感じ例年以上に面談を実施し生徒の心のケアに努めた。

令和3年度からは、国際科学探究コースが新設され、コースミッションやコースポリシーを作りながら、生徒募集活動を行い8人の入学生を得た。

①【進路意識の高揚と進路実現：評価B】2022年大学入試(第12期生)から、東大合格者を出せずに、2年連続で現役の東大合格者が出せなかったが、卒業生で合格者1名が出た。難関大学への受験者が少なかった半面、現役での国公立医学部医学科には9名合格者、現役生としては過去最高数の合格者を出

せたことは、医学部志向の多い学年であったことも影響していた。

コロナにより進学の実力通りの結果を残して、生徒たちはそれぞれで頑張りを見せてくれた。

②【学力の向上：評価A】オンラインに切り替えが必要だった期間中はZOOMによるオンライン授業に取り組んだ。この新しい取り組みは普段の先生方の授業を見つめ直す機会にもつながり、生徒の学力を向上させる生徒主体の授業改善がさらに進んだ。Googleのclassroom等の活用など、生徒との面談機会も増え適切な指導ができた。

③【探究の学びの継続：評価B】教員の資質向上や教員相互の情報の共有は本校にとって必須事項と考えている。しかし今年度は、コロナ対応が優先され、全校をあげての探究授業の前進にはいたらなかったが、先進的な取り組みをしているグループが独自にiPadを用いて探究教育を前進させている。

④【学校行事・部活動に充実：評価A】部活動の大会が中止になったが代替大会があり、生徒のモチベーションは維持できた。また学校行事も感染症対策を取りながら行事を実施し、生徒の企画が十分に反映されたため、例年以上に学校行事に充実感を感じていた。

⑤【体力の向上と品格の陶冶：評価B】オンラインでは体育の授業も取り入れ、体育教師によるダンスの模範演技を配信し休校期間中は生徒たちの体力低下に歯止めをかけた。感染予防対策の制約下では体を動かす機会を減少させスポーツテストの結果を見ると体力の向上には至っていない。生徒たちが新しい行事を考えることをきっかけに、ジェンダーフリーのような社会情勢も加わり、高校女子生徒の強い要望から女子のストラックスの導入に踏み切った。

#### 4. 次年度に向けての課題や方策

生徒の進路実現による本校の存在意義を結果として出していく。さらに、国際科学探究コースと総合探究の本格的な実施に伴い、これらを教育活動の中心に据え、その結果、生徒達自身が将来を見据え、進路意識の高揚と主体的な学びを実践するような学校環境を作り上げる。また、コロナ感染予防対策による代替活動を、充実した新行事として校内に根付かせ、世界を牽引するリーダーとなる人材の育成に努めていきたい。